

枝廣 ありがとうございます。鎌形さんのご説明と研究所の方々、経産省、環境省の方々の補足、コメントをいただいて、繰り返しになりますが、「一人ひとりが中期目標について考える」ことをしたいと思います。ただ、ポンと今の説明を聞いて、もしくは説明資料を渡されて、「考えてください」「選んでください」と言われても、難しいなと思います。

考えるために、何を自分は知る必要があるのか？ いま、いろいろいただいた情報で、もっと知る必要がある、確認する必要がある、もしくはいまの説明に全然出てこなかったけど、私は考える上でこういうことを知りたいと思う。そういうことがいろいろあると思います。

ですから、まず最初の小さなグループでのディスカッションでは、「自分は中期目標を考える上で何を知る必要があるか？」という話をしてもらおうと思います。グループのそれぞれで、中期目標は1がいいとか、6がいいとか、そういう議論ではなく、まず自分が考える上で何が必要かということを考えていただきます。

いまからやっていただくのは、ワールド・カフェというやり方です。一方的に情報を聞く、もしくは情報を伝えるという一方通行型ではなく、単にお互いに言いたいことを言うという、そういう意味での双方向でもなく、新しく物事をつくっていく上で大切なコミュニケーションの手法が「共創型」と私たちが呼んでいるものです。「共に創る」ためのようなコミュニケーションの形がありますので、今日はちょっとしか時間がありませんが、そのやり方でやってみようと思っています。

だいたい4～5人でグループをつくらうと思うので、前のテーブルの方が後ろを振り向くような感じでグループをつくっていただきますね。グループに1つずつ、こういった木片をお配りしました。これは、トーキング・オブジェクトと呼んでいるのですが、これを持っている人が話す、これを持っていない人は話を聞く、というように、役割をはっきりさせるために使います。ですから、お互いにいっぺんにしゃべることは、これではなくなるはずで、これを持った人は安心してしゃべってください。持っていない人は一生懸命、相手の言っていることを聞いてください。こういった形でやるというのが、このワールド・カフェの1つのルールになります。

このワールド・カフェというアプローチの前提は、誰かが誰かを説得するとか、誰かがすべて答えを知っているのではないということです。一人ひとりの中に大事なものがあって、それをお互いに出し合うことで、それまでになかった、一人ひとりの中にはなかった新しいものをつくり出そうという考え方です。

ですから、議論の時間を人数で割っていただくと一人の持ち時間がわかると思いますので、

だいたいそれをみんなで、お互いに守りながら、一人が牛耳ってしゃべることのないようにお願いします。これ、言っておいてもなさる方がいるので、そのときは私、行って注意をさせていただきますので（笑）。みんなでお互いに話をするという形でやっていきたいと思います。

20 分間、このようなディスカッションをしようと思っていますが、グループで、これを聞きたいね、これを確認したいねというものを、お配りしている質問用紙に書いていただきます。20 分終わったら休憩の時間になりますが、休憩の前にこれを提出していただいて、私たち事務局でこれを分類して、同じような質問をまとめて、それぞれお答えいただこうと思います。1 枚に 1 つ書くようにしてください。一応人数分ありますが、グループ 5 人で質問が 2 つだったら、もちろん 2 枚でも結構です。ただ、人数分以上は出さないように！ 取りあえず一人 1 つの数で計算をしていただければと思っています。

おそらく、全員の質問に答える時間はないと思いますが、どういうことを皆さん知りたがっているのか、つまり中期目標を考えるとときに何を知る必要があると思っている人がいるかという情報は非常に重要です。それは政府にとってもマスコミにとっても、私たちにとっても重要なので、あとで、出された質問はすべてまとめて、先ほどの「日刊温暖化新聞」のウェブにアップをします。どういう質問が出たか。可能だったら、研究者や政府の方々にお答えをつけていただいて、そこで質疑応答もある程度できるようにしていきたいと思っています。今日の時間にすべて答えられなくても、必ず、皆さんには見えるような形にさせていただくことをお約束しておきます。

では、前のテーブルの方は後ろを向く形で、4、5 人ずつグループができると思いますので。3、4 人でもいいですが。トーキング・オブジェクトをお互いに持ちながら、中期目標を考えるために自分は何を知る必要があるのか、何を知りたいのか。それをグループで話ながら、質問紙を書く　これをまず 20 分やっていただこうと思います。では、どうぞ。